

## 2年次：「職業体験」を通じた社会実装へのアプローチ



### 視点の転換

1年次の「海洋環境」の課題を、実際の「職業（働くこと）」のレンズを通して再構築する。

### 社会との接続

「環境を守るためには、どのような仕事やアプローチが必要か？」をリアルな社会構造の中で学ぶ (Application)。

### スキル獲得

課題解決に向けた具体的な方法論と、社会との関わり方を体得する。

# 3年次：「水田プロジェクト」で全てを統合し、体現する



## 学びの統合

海洋学習（課題認知）と職業体験（解決アプローチ）のすべてを、水田という新しいフィールドに注ぎ込む。

## 生徒主導のアクション

教員が用意した枠組みを超え、自分たちの力でプロジェクトを企画・実行し、地域社会へ還元する（Action）。

## 自己実現

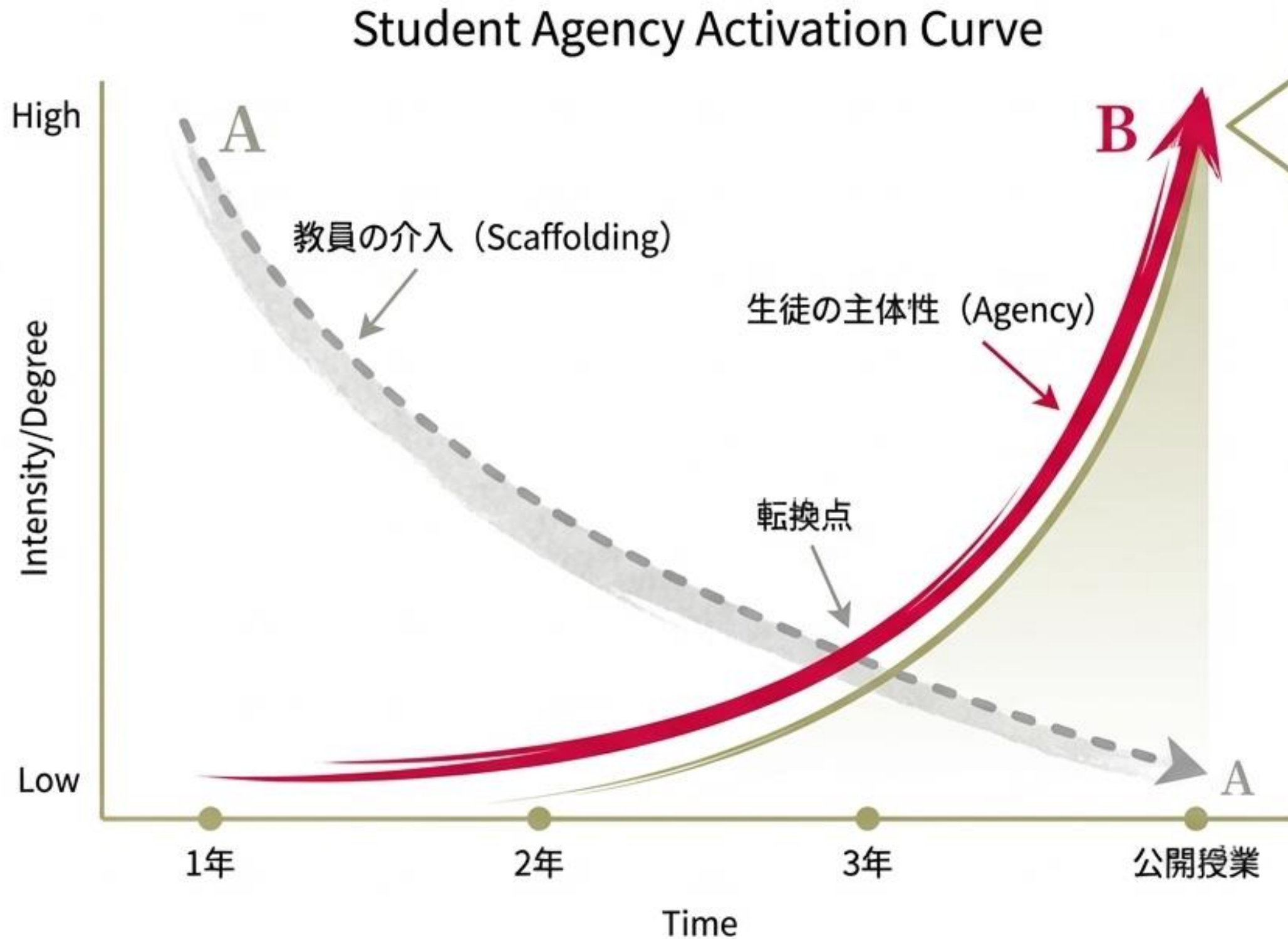
「やらされる学習」から完全に脱却し、自分たちの形を創り上げる集大成。

# 点から線、線から面へ： 設計された「主体性のエコシステム」



単なる行事の羅列ではない。この一貫した「Why → How → What」の  
フレームワークこそが、中学校の総合学習を劇的に変える鍵である。

# クライマックス：「先生、やらせてください」への到達



圧倒的な熱気：100名以上が参加した公開授業

究極の成果：指示を待つのではなく、自ら「やらせてください」と懇願する生徒たちの姿。教員自身が驚嘆する瞬間。

# 「総合」の新たなパラダイム： 能力を解き放つ時間へ

- 総合的な学習の時間は「教え込む時間」から「生徒の持つ力を解き放つ時間」へと進化しなければならない。
- 小中が連携し、緻密に環境をデザインすることで、生徒は必ず「やらせてください」という爆発的な主体性で応えてくれる。
- 令和6・7年度の教育課題研究が示すこのモデルを、共に次世代のスタンダードへ。